



愛川ふれあいの村 今月の風景

2026年2月 自然のたより

二十四節季の立春（2月4日）を迎え、いよいよ春に向かうのかなと思ったら、7日から8日にかけて今季初の積雪となりました。それでも三寒四温のこの時期の雪はあっという間に消えてしまいました。寒さと暖かさを繰り返しながら一步ずつ春に近づきます。立春から春分の日（3月20日）の間に吹く南寄りの強風（秒速8m以上）、春一番は春の訪れと共に竜巻などの自然災害をもたらすことでも知られています。おだやかな春の訪れになるように祈ります。もうすぐグラウンドの土手では河津桜が咲き始めます。（高梨）



咲き始めた河津桜



スギ花粉の季節到来



雪の中のシメ



春のリレー第一走者



満開の紅梅



雪に残るシカの足跡



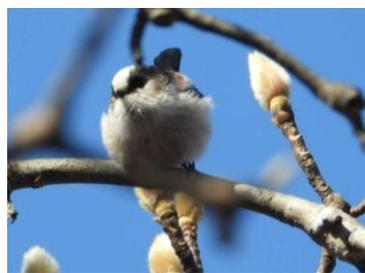
猛禽類に襲われたイカル



愛川町の鳥カワセミ



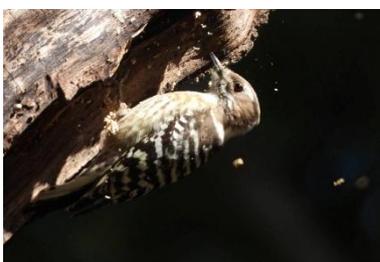
海老名市の鳥カワラヒワ



厚木市の鳥エナガ



トラツグミ



コゲラ突っつく



アオジも雪の中



もふもふのジョウビタキ♂



仲よし姉妹のウソ

トピックス ★400度の法則★

春になると、くしゃみが止まらなくなる“あの”厄介ものの飛散が今年も始まりました。そう、スギ花粉。花粉症持ちにとってはつらい時期、この始まりを告げる法則が「スギ花粉400度の法則」です。その年の1月1日から毎日の最高気温を足していき、ちょうど400度のタイミングが飛散のタイミングというもの。飛散タイミングを知りたがった先人の知恵です。ということは、昔の人も花粉症に悩まされていたということでしょうか。

そもそも、なぜそんなに花粉を飛ばす必要があるのでしょうか。一部の人間からすると、とても害があるように思えてしまいます。スギは、繁殖のために風を利用して受粉を行う「風媒花」です。そして、確実に子孫を残すために、無駄を承知で大量の雄花をつけるというではありませんか。さらに、戦後の植林計画として高度経済成長期に木材需要に合わせて大量に植えられたスギが成長し、手入れの担い手不足から、放置林となっている場所も増えてきています。温暖化により、早く飛散し、長く飛び続ける。花粉量の増加も近年話題になっています。

ということで、花粉を飛ばさないスギも開発されています。子孫を残したいスギと、木材などの使用はしたいけれど、花粉に悩まされる人間。それぞれの戦いにいつか決着はつくるのでしょうか。

(佐々木)



生き物

★蛭梅★

厳寒の中、甘い香りを漂わせる蛭梅。多くの生き物が冬ごもりをし、静寂に包まれるこの季節に黄色の花を咲かせ、冬の景色に彩りを添えてくれます。

名前に「梅」がつくため、同じ仲間と思われるがちですが、梅はバラ科であるのに対し、蛭梅はロウバイ科に属し、分類上は別種とされています。

日本では古くから、蛭梅は忍耐・気高さ・希望の象徴とされ、俳句や茶道など、様々な文化の中で親しまれてきました。蛭梅を一輪飾るだけで、周囲は優しい香りに包まれるといえます。これほど香りが良いと「お茶にできそう」と思ってしまうそうですが、有毒成分が含まれているため、口にすることはできません。

そんな蛭梅香る、静かで美しい冬のひとときを、一緒に感じてみませんか。(後藤)



旬 ★はっさく(八朔)★

ミカンといえば「こたつにミカン」。このミカンは、きっと温州ミカン。皮が薄くてむきやすく食べやすいのが特徴です。食べやすさが相まって手が黄色くなるまで食べてしまいます(昭和の時代に見られた冬の風物詩)。八朔や夏みかんは、夏のイメージですが、収穫は12月から2月にします。収穫した八朔は、酸味が強く美味しいとは言えません(酸味の好きな方は別ですが)。八朔を甘くするには、冷暗所で1~2か月間熟成させます。酸味が抑えられ、まろやかな味になります。完熟で食べ頃のサインは、皮につやがある、皮に細かい斑点(オイルスポット)が見えること。八朔は栄養価が高く、ビタミンC・カリウム・カルシウムが多く含まれ、美肌効果、便秘解消、むくみ予防など健康に良いことばかりです。皮が厚くむきにくいのが難点ですが、甘くなった八朔を食べてみてはいかがでしょうか。(菅原)



来月の見どころ
春を待つ星の花
コバルトブルーの鮮やかな色をしたオオイヌフグリは、牧野富太郎によって発見されたゴマノハグサ科の帰化植物です。四枚の花弁、二本の雄しべと一本の雌しべがありとても均整が取れ、空に向かって伸びています。
学名の *Veronica persica* は、十字架を背負ったキリストに汗をぬぐう布を差し出した聖女ベロニカに由来し、オオイヌフグリの花言葉である「忠実」「信頼」「清らか」を表しているといわれています。そんなことを思いながら花を見るとその美しさに心を奪われてしまいませんか。
オオイヌフグリは一日花、大きい二本の雄しべの間にある小さな雌しべの下に蜜が光って見えます。キチヨウが止まると花柄は倒れるように傾き、花にしがみつくことにより花粉がチヨウの体につき他の花へと運ばれ、受粉を繰り返す。虫が来ない時は自家受粉で増えていく。青い花は星のように野原を埋め尽くし人々に春の優しさを伝えてくれます。(吉田)